

このページは、小・中学生に向けて梅光学院大学子ども学部子ども未来学科(地域共生ゼミ)の学生が作っています。

※イラスト 渡邊志帆さん、原田陽さん

# しものせき キッズページ



▲「ツノシマクジラ」の骨格標本(つノしま自然館)

## 「クジラの生態のはなし」



▲海響館前にある「くじら感謝碑」。クジラへの感謝の気持ちを表し、「くじらさんありがとう」と刻まれています。

下関市の動物「クジラ」。クジラはどんな生き物か、皆さん知っていますか。今回は、クジラの生態について紹介します。

### クジラの生態って？



生き物の「生態」を知るといのは、その生き物にはどんな種類があり、何を食べ、どのように生活しているかなどを知ることです。

クジラは世界最大の哺乳類で、全世界に86種類以上が生息しています。定温動物なので、冷たい海水に体温を奪われないように、厚い脂肪によって身を守り、体温を

一定に保っています。

クジラは私たちと同じ肺を持っていて、水中では呼吸ができません。水中では息を止めて長く深く潜ることが出来る生き物なのです。息が苦しくなれば水面に出て大きな呼吸をします。

### クジラの種類と不思議



クジラは、種類によって大きさや食べる物が違います。

クジラは大きく分けて、「ヒゲクジラ」と「ハククジラ」の2種類に分けられます。大きな違いは、口と食事の仕方です。ヒゲクジラは歯がなく、プランクトンなどを海水ごと口を含み、上顎から伸びるブラシのようなひげ板で、餌だけをこしとって丸飲みにするのです。ハククジラは歯が生えているので、魚やイカを歯でとらえて食べます。

みんながよく知っているシロナガスクジラは、ヒゲクジラの種類です。世界最大の大きさだけでなく、この地球の長い歴史の中でも最大の大きさと体重を誇っています。体長は20メートル、30メートル、体重はおよそ150トンあります。そのシロナガスクジラの骨格標本が海響館に展示されています。全長はなんと23メートルあり、間近で見ると迫力満

点です！

そして水族館の人気者・イルカはなんとクジラの仲間なのです！ハククジラの仲間です。体の小さい種類を一般にイルカと言います。今度海響館に行くときは、イルカと、日本で唯一のシロナガスクジラの骨格標本をよく観察してみてください！

### クジラと下関



下関は、江戸時代より、下関市長門市でもりなどを使った捕鯨で栄えてきたと記録にあります。明治時代から大砲を使ってもりをとばす効率的な近代捕鯨が始まりました。下関は大洋漁業(現マルハニチロ)の捕鯨や造船などで、1950年代には大変にぎわいました。

1998年には新種のヒゲクジラが角島沖で発見され、「ツノシマクジラ」と名付けられました。体長は推定11メートル、生態はまだよく分かっていませんが、大型のヒゲクジラでは90年ぶり、「20世紀最後の大発見」と言われています。現在、つノしま自然館に骨格標本が展示されています。

このように、下関の人々の生活とクジラは、長い歴史の中で深いつながりがあったのです。



2月号の編集記者

村田宏仁さん(前列右)



▲1958年に大洋漁業より寄贈されたくじら館。長府にあった旧下関水族館のシンボルでした。



▲クジラのひげ(左)とクジラの歯(右)

▲下関鯨類研究室(田中町)の室長・石川さん。クジラについて知ってもらうための活動しています。